

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム設楽の家
(ユニット名)	1号館
所在地 (県・市町村名)	愛知県北設楽郡設楽町
記入者名 (管理者)	村田鈴代
記入日	平成 19 年 6 月 20 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型として、住み慣れた地域で安心した暮らしが出来る様に支援することを、事業所の理念としている。	○	長年暮らしてきた環境、また、顔見知りの人たちとの交流によって、ゆったりとありのままに暮らして頂きたいと思います。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングなどで管理者、職員で話し合い具体的なケアについて意見の統一を図っている。	○	職員が理解をし、それを介護に反映できるようにして行きたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域にパンフレット等を配り、広くわかりやすくしている。	○	今後も地域の方や家族の方に理解して頂ける様に行きたい。
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣に住む方々が、暇をみて畑の作物などの差し入れに出来る方もいる。	○	もう少し近づきやすい環境を作りたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭り等には利用者と共に参加し、学校等の行事などにも参加している。	○	地域のお祭りや学校の行事だけでなく、もっと積極的に地域との関わりを持ちたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症の事や介護知識・技術等、地域の方から質問や意見があれば、話し合っています。	○	地域の方と積極的に関わり、役に立てる事はどんどん提供していきたいです。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を踏まえ、改善するよう職員に伝え、取り組むようにしている。	○	前回と比較し、少しでも向上できるよう評価を真摯に受け止めて、改善に努めたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、委員の方たちから、率直な意見等をいただき、サービス向上に活かしています。	○	運営推進会議がマンネリにならないよう、議題を設け活発に意見が出され、サービス向上に取り組みたいです。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	常に連絡を取り合い、情報交換に努めています。	○	今までと変わらず、市町村担当者とは、密に連絡を取り合い情報交換に努めて、何でも相談できる関係でいたいと思います。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護事業、成年後見制度については、役場や社会福祉協議会が主に支援を行っている。	○	勉強会等を開き、知識を身につけ、必要な人に支援できる様にしたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はないと考えられる。しかし、ホーム内で見過ごされない様、注意を払い防止に努めている。	○	高齢者虐待防止法に関する、理解浸透に向けた取り組みを行う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間を取り、不安・心配な事がない様に丁寧に行っている。	○ 今後も、納得のいく契約等をし、利用者や家族が不安や心配等を抱かない様に努めていく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度から、その思いを察する努力などしている。	○ 利用者や家族と常に信頼関係を持ち、苦情・不満等が持ち上がった場合、職員ミーティング等で話し合い、速やかに対応していきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、個別に手紙で様子を知らせている。金銭管理は、出納帳に記入し、ご家族様のサインを頂いている。	○ 写真等も手紙と一緒に同封していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気軽に意見・不満・苦情を出して頂けるような雰囲気を作り、信頼関係を築いている。	○ 今迄は、家族からの不満等、問題もなく信頼によって良い関係を保持しているので、このまま継続できるようにしていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングなど月に数回行い、意見交換をしている。また、日頃からコミュニケーションを図るよう心掛けている。	○ 職員が意見を出した時は、管理者からのアドバイスがあり、それも参考にしながら、よい方向に持っていける様にしている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者ができる限り自由な暮らしができるように、ローテーションを考えて組んである。	○ 状況に応じた対応ができるよう、ゆとりの人員確保をお願いしたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員が入れば、利用者きちんと紹介している。	○ 新しい職員、利用者が入った場合、行事として全体で紹介して行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	A課程・B課程等、法人主催の職員研修に参加している。	○ 研修終了後、研修レポートの提出をしている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等を通して、同業者と交流をしている。	○ 他の事業所(グループホーム等)を見学したい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者との面談により、職員のストレスを緩和している。	○ 利用者と離れ、一息入れる休憩時間がほしい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	健康診断を実施し労働条件を整えて、職員が意欲を持って働けるようにしている。	○ 資格取得に対し支援を行ったり、研修補助制度で自己研鑽にも力を入れている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の生活状態をよく聴き、本人の求めている事を知るようにしている。	○ 本人と向き合い、傾聴しています。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が今何に困っているか、十分に話しを聞くようにしている。	○ 家族の困っている事を、本人の意思とは区別して把握しています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っている事や不安な事に対して、できることは直ぐに実行している。	○	必要に応じて、他のサービス機関につなげていく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に事業所を見学して頂いている。	○	ご家族や以前関わっていた関係者にも来て頂く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に暮らす同士として、苦しみ・不安・喜びを共感する。	○	「利用者は人生の先輩」という気持ちを常に持ち、敬う気持ちを忘れずに関係を築きたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	共に本人を支える姿勢で、一緒に考えていくようにしている。	○	日々の暮らしの中から、「気づき」等情報の共有に努める。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の日頃の状態を、面会時等を通して報告している。	○	事業所で行う企画行事に家族を誘う。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人にも面会して頂いている。	○	本人が築いてきた人間関係等を知る。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個別に話しをしたり、皆さんでゲーム等をする時間を持つようにしている。	○	お茶や食事の時間は、職員も一緒に多くの会話を持つようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族から相談があった場合、随時、相談に乗っている。	○	事業所に気楽に立ち寄れる雰囲気を作り、立ち寄って頂けるように取り組む。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で声掛けし、思いを話して頂いている。	○	余暇活動等を通し、利用者様の気持ちを把握する様に努める。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様に昔話しを楽しく話して頂き、これまでの経過等の把握をしている。	○	体験談を利用者さん同士で話し合う機会を作る。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	排泄などの時間のチェックをしている。	○	天気や季節などによる体調変化も、気をつけてみていくようにする。
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の思いを聴き、ケアに反映させるようにしている。	○	本人や家族の要望を聞く。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	最低でも3ヶ月に1回、モニタリングをし、現状に応じたケアプランを作成している。	○	現状とケアプランとの違いがないよう、実状に応じたケアにつながるような、ケアプランの見直しをしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に用紙を用意し、食事摂取量・排泄等、身体的状況及び日々の暮らしの様子等を記録している。いつでも、全ての職員が確認できるようにしており、勤務開始前の確認は義務付けている。	○	職員の気づきや利用者の状態変化は、個々のケア・記録に記載し、職員間の情報の共有を徹底している。また、個別記録を基に介護計画の見直しや評価を実施している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況や要望を軸に臨機応変に対応している。	○	今後も続けていくつもりです。
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるように、関係機関と意見交換する機会を設けている。	○	地域の機関等と協力しながら、必要に応じた対応をしていきます。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、適切に事業所以外のサービスとつなげるよう、外部のケア・マネージャーと連携を図っている。	○	本人の希望や体調に応じて、訪問理容美容サービスを利用したい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域のサービス事業者・関係団体・民生委員・一般住民等によって構成される方達と、認知症の人を地域で支える為協働しています。	○	今後は、ますます認知症の方も増え、より一層、地域包括支援センターとの協働が大切になっていくと思います。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族様が希望する「かかりつけ医」となっている。受診は、ご本人やご家族様の希望に応じて対応している。	○	今後も変わりなく、本人やご家族様の希望を大切に受診して行きたいと思っています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の医療にも熱心で、家族や職員の話をよく聞き、日常の利用者の姿を通して、適切な指示や助言をしてくれる医師を地域で確保している。	○	常に協力医と連携を結んでおり、必要性がある時には、最も適切と思われる所に紹介状を書いて頂き、受診へとつなげている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	特に看護職との協働はしていない。	○	看護職員を配置し、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院によるダメージを極力防ぐ為に、医師と話しをする機会を持ち事業所内での対応可能な段階で、なるべく早く退院できるようアプローチしている。	○	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞うようにしている。また、家族とも情報交換しながら、速やかな退院支援に結びつけている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向、本人にとってどうあったら良いのか、事業所が対応しうる最大の支援方法を踏まえて、方針を職員で話し合っている。	○	協力医とは、常に連絡を密にし、緊急時、本人や家族に不安を抱かせない様な対応をして行きたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人や家族の意向を踏まえ、医師・職員が連携をとり、安心して納得した最後を迎えられる様に、随時、意思を確認しながら取り組んでいる。	○	本人の気持ちを大切にしつつ、家族と話し合い、利用者が安心して終末期を過ごしていけるよう取り組み、急変した場合は、すぐに対応していただける様、医療機関とも密に連携を図り対応していきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所に移られた場合、ケアプランや支援状況(退所サマリ)等を手渡すと共に、情報交換を行っている。	○	新しい住まいでも、これまでの暮らしの継続性が損なわれないように、これまでの生活環境・支援の内容・注意が必要な点について情報提供し、きめ細かい連携を心掛けていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	他の家族や外来者に対して、職員が本人のプライバシーに関する事を話さない様に徹底している。	○ 人前であからさまに介護したり、誘導の声かけをして本人を傷つけてしまわないように、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	意思表示が困難な利用者でも、表情を読み取ったりして、些細な事でも本人が決める場面を作っている。	○ 職員側で決めた事を押し付けるような事はせず、複数の選択肢を提案して、一人ひとりの利用者様が、自分で決める場面を作っていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは持っているが、時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりの体調に配慮しながら、その日・その時の本人の気持ちを尊重して、できるだけ個性のある支援を行っている。	○ 買い物や散歩等、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応しているが、今後も取り組んでいきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝の着替えは、基本的に本人の意向で決めており、職員は見守りや支援が必要な時に、手伝うようにしている。自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えて本人の気持ちに沿った支援を心掛けている。	○ 女性の利用者が多い為、日頃から、化粧やおしゃれを楽しんで頂ける様に取り組んでいきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・盛り付け・片付け等も利用者と共に、職員と利用者が同じテーブルを囲んで、楽しく食事できるように雰囲気作りも大切にしている。	○ 献立作りから、利用者様と相談しながら決めるようにしたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	アルコールのみ提供していない。	○ 基本的に好みの物は一人ひとりの状況に合わせて提供している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を利用し、時間や習慣を把握しトイレ誘導する事で、トイレでの排泄を促し失敗を失くす様に配慮している。紙パンツ・オムツ等の使用を減らし、極力、自己にて排泄ができるよう配慮している。	○	失敗してしまった場合でも、極力本人が傷つかないように着替えをするなど、配慮すべき点をもっと職員同士で話し合い取り組みたい。トイレ誘導をしても応じてくれない方への対応なども考え、個々の時間や習慣をもっと詳しく把握する。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	昼間に入浴しているが、職員が一方的に決めてしまわず、利用者様のその日の希望等を確認しながら入浴している。入浴の順番なども、なるべく皆様に気持ちよく入浴して頂ける様配慮している。	○	本人の希望に考慮した対応ができるようになると良い。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動をしてもらい、夜間ゆっくりと睡眠がとれるように生活リズムを整えるようにしている。また、その日の体調などに合わせ休んで頂けるように支援している。就寝できない時は、温かい飲み物を出してお話をしたりして、安眠して頂ける様配慮している。	○	昼間に無理矢理起こして活動させるのではなく、その時々状況に合わせて休息したり活動して頂ける様にする。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事や農作業・工作など、利用者様一人ひとりが、それぞれの力や昔からの知恵や経験を、発揮できるような雰囲気作りを支援している。歌をうたったり、昔の遊びをすることで、楽しい気分になっていただきながら、気晴らしができるように支援している。	○	家事は毎日行う大切な事ではあるが、同じ事の繰り返しでマンネリ化しやすい為、日々方法を変えたりする事でマンネリ化しないようにする。楽しみごとなども、マンネリ化しないように、様々な物を用意し、利用者様全員が楽しめる様職員の方から配慮する。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の能力に応じ、できる人に関しては小額ではあるものの、家族より預かり手元に持って頂いている。家族より預かったお小遣いは、施設が管理している為、利用者様がお金に触れる機会はほとんどない。	○	家族より預かった小遣いは施設が管理する為、利用者様が手元に持つことはない。また、支払いについても職員が行うことが多い為、利用者様がお金に触れる事は少ない。できる利用者様については、職員が付き添いながら支払いをするなど、お金に触れる機会を作る必要がある。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や本人の希望に応じ、施設の中だけで過ごさないよう、周辺を散歩したりしている。	○	日常的に買い物などの外出が出来ていないのが現状である為、散歩だけでなく、ドライブも兼ねて買い物をするなど、日常的に行えるように支援したい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	企画書を通して、普段は行けない様な場所へ外出したり、利用者様の要望に応じて外食へ出掛けたり、遠出して買い物に出掛けられる様支援している。家族にも協力していただきながら、外出できるように支援している。	○	利用者様の要望に必ずしも答えられている訳ではない為、少しでも多く要望に答えられるよう、職員の勤務や日程を調整をするなどして、支援につなげられるようにしていく必要がある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が利用者様の家族へ、毎月の様子を手紙にて報告している。利用者様本人が家族等へ手紙を書くなど、一部の利用者様は行っている。	○	家族等への連絡が取りたいと要望があった場合、手紙の用意や電話時のプライバシーなどに配慮する。自ら連絡を取ることが難しい利用者様については、職員が定期的に連絡を取るようになる。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	笑顔や挨拶を忘れず、また、室内に季節ごとの飾りつけをするなど明るい雰囲気作りを心掛け、いつでも気軽に訪問していただけるようにしている。	○	訪問者様が、いつでも気軽に来て居心地よく過ごして頂ける様なスペースを作ったり、訪問の時間に制限を作らず、気兼ね無く訪れて頂ける様にする。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自覚をしない身体拘束が行われていないか等、日々職員同士で確認・点検し合っている。	○	職員同士で話し合いの場を作り、自覚しない身体拘束が行われていないかを、確認点検する必要がある。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の鍵を閉めず、利用者様が外出しそうな様子を感じたら、さりげなく声掛けしたり、一緒についていくなど、安全面に気を配りながら支援している。	○	職員の都合で、利用者様が外へ出たがっても止めてしまう事が多く、不愉快な思いをさせてしまう事もある為、日中、玄関の鍵を閉めない事はもちろん、自由な暮らしを支える為には、どのようにすべきかもっと検討しなければならない。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、記録等を書くときも、利用者様と同じスペースにいて全員の状況を把握できるようにしている。夜間センサーを使用し、また、こまめに見廻りする事で、利用者様の様子を確認し、転倒やベットからの転落などが起こらないようにしている。	○	見守り・見廻りについて、今まで通り継続し、昼夜問わず、常に利用者様の所在確認など、安全に配慮する。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみや包丁など、危険が生じる恐れのある物は、利用者様の見えない場所に置き、使用が必要な場合は、職員が見守りをして使用して頂く。薬・洗剤等は職員が管理をし、必要に応じて見守りをして、使用・服薬して頂く。	○	職員が見守りをして、使用・服薬していただくよう継続していくことはもちろん、職員一人ひとりが、危険を防ぐ取り組みを、より一層協力し合いながら配慮できるようにする。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	歩行不安定な方への歩行見守りや、誤嚥の可能性の高い、また、飲み込みの弱い方への食事介助等、一人ひとりの状態を把握し、事故を事前に防ぐことができるよう取り組んでいる。事故が起きてしまった場合、事故報告書を作成し、今後の対応(予防)へとつながるようにしている。	○	一人ひとりの状態を、日々もっと詳しく様子観察し、事故を事前に防ぐ為の対応を、新たに検討しなければならない。万が一、事故が起きてしまったとしても、すばやくバイタルチェックなど対応をし、情報共有の場をつくる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て、救急手当てや心肺蘇生法を学び、また、夜間緊急時のマニュアルを基に、対応できるようにしている。	○	今後も、消防署の協力を得て、救急手当てや心肺蘇生法を学び、いざという時に活かせると良い。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、避難訓練・避難経路の確認などの訓練を、利用者様と共に行っている。	○	今後も消防署の協力を得て、定期的に避難訓練をし、その時々状況に合わせた避難方法・経路を考えておく必要がある。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会に見えた際に、最近の体調や様子を伝えたり、ご家族様レターに、毎月の体調の変化や様子を書き伝える事で、一人ひとりに起こり得るリスクについて説明をしている。	○	管理者やリーダーだけでなく、全員が利用者様の体調やリスクをしっかりと理解し、家族にわかり易く説明できるように話し合わなければならない。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、バイタルチェックを行い、少しでも異常が見つかれば職員同士で情報を共有し合い、様子を観察している。また、異変等の状況により、かかりつけ医や協力医等の医療機関への受診をしている。定期受診を行い、医師の指示を受け変化等を観察している。	○	職員間での情報共有の場をもっと増やし、日々の利用者様の状況の把握をし、体調変化の早期発見に努める。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を利用者様個々のカルテにファイルし、薬が変わった時、職員が把握できるようにしている。服薬時には、本人に手渡しをしてきちんと服薬できているのかを最後まで確認している。	○	毎回薬剤情報に目を通し、薬の内容等正しく理解する。職員間で情報を共有し合う機会を設ける。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防の為、毎日必ずヨーグルトを提供し、野菜を多く取り入れた食事を提供している。体操や散歩など日常的に身体を動かす機会を設け、自然排便できるように取り組んでいる。個々の排便チェック表をつけ、管理している。	○	排便チェック表をつけているが、全員が排便をしているか、把握しきれない為、トイレ時は注意して様子観察をする。便通の悪い利用者様に対し、自然排便ができるように、どうすべきか改善点を職員間で話し合い、実行に移せるよう努力する。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、必要に応じて見守りをしたり介助を行っている。義歯使用者は、毎日就寝前に職員が義歯を預かり、睡眠中に誤って飲み込んでしまわない様になっている。	○	声掛けしても、毎食後は口腔ケアをしてくれない利用者様もいる為、誤嚥性肺炎防止の為に、少なくとも就寝前だけでも、歯磨き・うがい等の口腔ケアをしていただけるようにする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有しています。	○	むせたり・飲み込みの悪くなった利用者様には、食事・おやつ前にお茶を一口服用して頂くようにしています。また、副食を刻みにしたり、食事しやすい食器を使用しています。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者様の家族に同意を頂き、また、職員もインフルエンザ予防接種を受けています。	○	天気の良い日には、布団干しをする。居室・ホール・トイレ・手すりなどは、毎日、ハイターの薄め液で拭き清潔にしています。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材に購入した日付を入れるようにしています。残ってしまった食材は、次の職員に使用して頂くようにしています。	○	まな板・ふきんはハイターで漂白しています。お茶・薬を服用する湯冷ましは、日時を記入し新鮮な物を提供しています。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	外の大きな門は開けてあります。中の小さな門は閉めてありますが、いつでも出入り出来る様になっています。	○	ベンチはありますが、花などがもう少しあったら良いと思います。地域の人たちがもっと気軽に寄れると良いと思います。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂のテーブルの上には、季節の花を飾ってます。壁面に利用者様と共に作った季節の物が飾ってあります。	○	残飯・汚物など新聞紙に包んで臭いが出ないようにして捨てています。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファと堀コタツがあり、そこで、仲の良い利用者様同士が過ごしています。	○	一人になれる場所は居室しかありませんので、他の利用者様に配慮した場所を確保したいと思います。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の時に、利用者様の馴染みにしているテレビや自分のおいにする布団・洋服・下着などを持ってきてもらうようにしています。	○	カーテンなど好きな色・柄等にできれば良いと思います。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者が外気浴などしている時に、居室の扉・窓などを開けて空気の入れ換えを行っています。	○	トイレは換気扇と消臭剤で悪臭が出ないようにしています。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の状態に合わせて、車イス対応をしています。入浴時はシャワーチェアも使用します。	○	居室内の出入り口の所にセンサーが設置してあります。個人の状態に合わせて、センサーの位置を変えたりしています。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所がわからない利用者様には、貼り紙をしてわかりやすくしています。	○	便座の蓋を外したり、トイレの扉を少し開けておいて、トイレと解るようにしています。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑がありますので、野菜を作っています。	○	洗濯物を干したり、外気浴などしています。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域住民や地元の人々ともっと交流を深めたい。